
技術研究報告の発刊にあたり



執行役員 技術本部長
永田 尚人

熊谷組技術研究報告第80号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

英国で開かれていたCOP26が、成果文書を採択し閉幕しました。採択された成果文書では、「1.5度目標」を実現するため努力を追求するという目標が明記されています。この目標を達成するべく世界各国でカーボンニュートラルに向けた動きが加速している背景として、地球温暖化による影響と考えられる自然災害の激甚化が指摘されています。近年、わが国でも毎年のように大規模水害が発生し、今年も7月と8月に72時間雨量で800ミリを超えるような集中豪雨による災害が発生しております。

これまで建設業は、巨大地震災害や気候変動による豪雨災害などに対して、レジリエントで持続可能な社会を構成するインフラ構造物や建築物を整備し、技術開発に取り組んでまいりました。これからのカーボンニュートラルを実現するためには、施工面での地道な脱炭素化や温暖化対策だけでなく、社会システムの大きな変革を支える新たな研究ならびに技術開発が求められてきていると考えられます。

カーボンニュートラルという目指すべき未来社会の実現に向けて、熊谷組グループでは様々な分野の方々との議論と協調により研究開発業務を進めるとともに、解決すべき課題に対して常にチャレンジ精神をもって新たな価値を提供してまいりたいと存じます。

本研究報告をご一読されご興味を持たれたお客様におかれましては、多くの課題解決につきまして意見交換をお願いできれば幸いです。

今回お届けする熊谷組技術研究報告では、「土木構造物のリニューアル」を特集いたしました。この分野における権威でもあり、弊社が技術的なご指導を頂戴しております大阪大学名誉教授の松井繁之先生より、「道路橋RC床版の高耐久性PC床版への取り換えについて」と題する巻頭言を寄稿していただいております。この中でご紹介いただいた『コッター式継手を導入した橋梁用プレキャストPC床版の設計・施工技術』は、令和2年度土木学会技術開発賞を受賞しております。今回の特集では、「コッター床版工法」の開発概要の報告、土木分野でのリニューアル工事に関する報文の2編を掲載しております。

研究論文ならびに研究報告では、当社の「ESG取組方針」に基づく環境配慮型技術開発や木造建築事業への取り組み事例として「木質垂壁ラーメン構法の開発研究」、社会課題解決に向けての研究開発事例として「大振幅地震動に対する免震用複合ダンパーの研究」や「フローラ・テンドーの開発」など、14編の知見をご紹介します。

土木分野の施工報告では、橋脚工事における生産性向上に関する施工事例報告など3編、建築分野では生産性とコストダウンを追求した高品質な放送局施工の事例報告など3編をご紹介しますとともに、今年度も、土木技術発表会および建築技術発表会から注目された計5編の報文も併せて掲載しています。

皆様におかれましては、この熊谷組技術研究報告をご高覧いただき、格別のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月
